

兵庫県立農業高等学校

第3次アクションプラン 10の行動計画

5つの基本方針（目指す学校像）を具体化するために、10の行動計画を定めました。
我々農業高校は、以下に示す行動計画に従って具体的な行動を起こしていきます

No. 1

No.	全国農業高等学校長協会		行動計画	キーワード	学科
	行動計画	キーワード			
1	「生徒一人一人を一層輝かせ成長させる」教育を行います。	アグリマイスター顕彰	生徒の興味・関心や進路希望に応じた、高校生らしいユニークで斬新なテーマの研究に意欲的に取り組み、知的探求心を高めます。また、大型特殊運転免許等の関連の資格取得を推進します。	課題研究 資格取得	農業科
			1～4名という少人数の班がそれぞれにテーマを設定し、自ら調べ、経験し、学んでいく課題研究を続けていきます。	少人数班 主体的な学び	園芸科
			基礎基本を中心に丁寧な指導を行います。資格取得の推進をします。	資格取得	動物科学科
			資格取得を推進し、合格率向上のために指導の充実を図る。専門科目の学習の中で食品分野における幅広い知識と、技能の習得を目指す。	資格取得	食品科学科
			測量士補や土木施工管理技術者等の難関試験合格に向け、数学的知識及び専門的知識及び技能の向上を図る。	難関資格	農業環境工学科
			生徒の進路希望が広がる学びを展開します。身近な環境から都市公園まで幅広い緑地空間を対象にした学びを提案します。また、緑のスペシャリストとして実践力のある国家資格である「造園技能士」の取得を推進します。	造園実習 資格取得	造園科
			第1回アグリマイスター全国最優秀生徒以降、優秀生徒を継続して排出している。今後も職業教育と資格取得を関連付けた教育を推進し、優秀な生徒を育てていく。	資格取得	生物工学科
2	「世界と日本をつなぐグローバル」教育を行います。	グローバル教育	先進地見学研修の実施により、先端農業施設、農業大学校、農林水産技術総合センター、担い手育成関係施設の見学等を通じて、県内農業の取組を理解するとともに、担い手育成に向けた体系的な学習を推進する。	高大連携 産学連携	農業科
			農業普及センターや花卉協会による最前線の技術指導を受けています。	高社連携	園芸科
			乗馬協会(乗馬技術の向上)・六甲山牧場(ふれあい動物の活用方法)・全農兵庫(受精卵の共同開発)などを通じて、動物に関わる幅広い授業を展開していきます。	産学連携	動物科学科
			地域の団体と連携し、地域独自の加工品開発の研究を行う。	地域独自性	食品科学科
			土地改良連合会、土地家屋調査士による出前授業やインターンシップへの参加により、地域に名指した技術者を育成する。	技術者	農業環境工学科
			県立淡路景観園芸学校への見学研修、スポーツスタジアムやゴルフ場などの造園関連業での体験学習や職場実習を実施します。	職場体験 校外研修	造園科
			大学・農業技術センター・研究機関と連携した共同研究や研究発表会を実施する。	ポスターセッション 高大連携 産学連携	生物工学科
3	「地域農業の生産を支える」教育を行います。	生産技術・経営	周辺地域のOB専業農家でのインターンシップ実施により、地域で取り組まれている先進技術の習得と経営実態の理解、農業改良普及センターやJAなどと連携した生産技術等の改善・向上に努める。	インターンシップ	農業科
			「野菜」「草花」「果樹」という園芸農業の基幹3分野をすべて経験する中で、それぞれの生産技術や経済性についての理解を深めます。	野菜草花果樹	園芸科
			インターンシップの推進や農業研修の参加を推進します。農業従事者や担い手育成に励みます。出荷や共進会の参加などで校内で実施できない経験を実践していきます。	研修・体験活動	動物科学科
			5S活動(整理・整頓・清潔・清掃・躰)を実践し、法令順守の精神を育み、安心・安全な加工品を製造する。	安心・安全な加工品の製造	食品科学科
			効果的な生産を生む耕地整理の在り方について学び、農業生産性の向上につなげる。	耕地整理	農業環境工学科
			地域の造園業者との連携を深め、剪定技術講習会など積極的に取り組み、技術向上に励みます。地域の緑化活動に貢献できる人材や造園を担う後継者を創出します。	造園組合との連携造園スペシャリスト	造園科
			地域の生産者、農業普及センターなどとの有機的な連携(アクティブネットワーク)を推進する。	アクティブネットワーク	生物工学科
4	「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する」教育を行います。	地域産業貢献・6次産業化	地元酒造会社と連携した山田錦の栽培及び日本酒の醸造。また、米穀問屋と連携した「良味米」の生産に継続して取り組む。さらに、先進地見学研修により、6次産業化の実態を学ぶ。	山田錦良食味米農家レストラン	農業科
			染物やジャムなどの農産加工品の開発から6次産業化を促進するとともに、園芸装飾技能士の資格取得を通して地域の花をフラワーアレンジメントとして活用できる人材を育成します。	新たな付加価値の付与	園芸科
			兵庫のブランド但馬牛の生産をはじめ、本校で生産される生乳や鶏卵の加工処理連携を行っている。本年度からプロイラー生産にチャレンジし生産から販売までを行います。	食料生産の重要性・安全性	動物科学科
			校内や地域の6次産業化を推進し、地域資源を有効活用した魅力ある加工品を製造する。	地域資源の有効活用	食品科学科
			科目「農業と環境」「総合実習」などを通し、農業の基礎を学びます。また、剪定枝の堆肥化などの研究に取り組み、造園と農業の連携を図ります。	廃棄物の有効化	造園科
			兵庫型体験教育の実践として、長期間に及ぶインターンシップを実施する。これにより、地域の課題や地域のニーズに則した商品開発・新品種の育成を推進する知識と技術を学ばせる。	商品開発新品種育成	生物工学科
			県内の農業高等学校で唯一の「ひょうご安心ブランド」認証トマトの生産、及び食品認証制度についての理解を深め、安心・安全な農産物についての普及・広報活動を実施する。	兵庫県環境創造型農業	農業科
5	「地域環境を守り創造する」教育を行います。	環境技術・創造	JR東加古川駅前をはじめとした季節が感じられる花壇造成等による生活を豊かにする環境創造活動を推進する。	草花による生活環境の創造	園芸科
			アニマルウェルフェアに取組み、生命に対する畏敬の念を培います。また、鳥獣被害軽減のため鷹匠による駆除を実施する。	アニマルウェルフェア 鷹匠	動物科学科
			廃棄農産物を低減するために、規格外農産物を積極的に加工原料として使用する。	廃棄農産物の低減	食品科学科
			郷土の環境について学び、我が国一の数を誇るため池等の地域資源やそこに住む在来種を保護を通して、後世に引き継ぐ教育を行う。	ため池ミュージアム	農業環境工学科
			科目「農業と環境」「総合実習」を通し、農業の基礎を学ぶとともに、生命ある植物を扱うことで責任感と生命の尊さを学ぶ。	持続可能農業農業と環境	造園科
			農畜産物は、微生物を含めすべてが命によって成立することを実験実習を通じて学ばせる。このことで、命の尊厳と食の安全性について理解を深めさせる。	食の安全命の尊厳いただきます	生物工学科
			。		

No.	全国農業高等学校長協会		行動計画	キーワード	学科
	行動計画	キーワード			
6	「食育」教育を推進します。	食農教育	特別支援学校高等部(栽培)・小学校(収穫・調理)、幼稚園(栽培)と連携した「食育」の継続実施。また、育児サークル対象にしたイチゴ狩りやサツマイモ掘りなど、幅広い年代との食育を推進する。	交流学习	農業科
			1学年で必修科目として学ぶ「農業と環境」では播種から収穫・試食までを一貫して行い、食と農のつながりを実感するとともにそれらへの興味・関心を引き出す。	種まきから食卓まで	園芸科
			酪農教育ファーム認証を受け、生徒たち自らが伝える側となり、酪農を中心に地域の子どもたちに畜産業について興味関心を持ってもらい、食育活動を広めていきます。	教育ファーム・食の安全	動物科学科
			加工原料の栽培から加工、販売までの体験的学習を通して、食に関する知識を身に付け、健全な食生活を実践できる能力を育てる。	食に関する体験的学習	食品科学科
			1学年で必修科目として学ぶ「農業と環境」では播種から収穫・試食までを一貫して行い、食と農のつながりを実感するとともにそれらへの興味・関心を引き出します。	種まきから食卓まで	農業環境工学科
			科目「農業と環境」「総合実習」を通し、農業の基礎を学ぶとともに、生命ある植物を扱うことで責任感と生命の尊さを学ぶ。	持続可能農業農業と環境	造園科
			農畜産物は、微生物を含めすべてが命によって成立することを、実験実習を通じて学ばせる。このことで、命の尊厳と食の安全性について理解を深めさせる。	食の安全命の尊厳いただきます	生物工学科
7	「地域資源を活用する」教育を行います。	資源活用	学校設定科目「総合農業」を通じて、進路決定を目前に控えた3年生に対して、地域住民である受講生の経験や教育力を積極的に活用する。	地域教育資源	農業科
			保育園、老人介護施設等との園芸活動を通じた交流活動を実施し、社会園芸に関する知識と技術を習得する。	地域教育資源	園芸科
			野間うまや鷹の活用方法。絶滅危惧種の保存、繁殖に取り組んでいきます。但馬牛の受精卵作成を行います。	種の保存	動物科学科
			地域連携を推進し、地域資源を活用した魅力ある加工品の製造・開発を実践する。	地域連携	食品科学科
			外来種の堆肥化等、農業生産資源として活用する	堆肥化	農業環境工学科
			地域の人的資源を生かし、造園施工技術の向上に励みます。全国技能五輪やものづくり競技会など各種競技会やガーデンショーの積極的に参加します。	インスパイア事業	造園科
			地域社会や組織との連携を推進し、地域の物的・人的リソースを活用する。これにより、生徒たちの地域での学びを深め、地域の教育力を引き出す。	リソースの活用地域の教育力	生物工学科
8	「地域交流の拠点となる」教育を行います。	ヒューマンサービス	各種イベントでの販売実習、当直実習でのリヤカーの引き売りによる販売実習を通じて、専門学習の成果を披露するとともに、地域住民との交流を推進す	販売実習	農業科
			JR東加古川駅前の草花による緑化、警察や病院へ花を提供したりすることで地域に潤いと活気を与えています。	交流学习課題研究	園芸科
			ふれあい動物園やアニマルセラピーなど地域イベントに参加し交流を深め、社会力やコミュニケーション能力の向上を図ります。	地域イベント・ふれあい	動物科学科
			かいぼり(池干し)等、3世代が関わる「ため池」をキーワードにしたイベントで地域交流の核となる。	かいぼり	農業環境工学科
			県農祭での「ハンギングバスケット体験教室」をはじめとし、多肉植物植え付け講座など各種イベントにて体験教室を実施します。	交流学习課題研究	造園科
			農業生産者・大学生・農業普及員・地元小学生を本校に招き、研究会や勉強会を実施する。	地域連携地域交流	生物工学科
			先進地見学研修の実施により、先端農業施設、農業大学校、農林水産技術総合センター、担い手育成関係施設の見学等を通じて、県内農業の取組を理解するとともに、担い手育成に向けた体系的な学習を推進する。	高大連携産学連携	農業科
9	「各種農業関係機関・団体と連携した」教育を行います。	地域連携	農業普及センターや花卉協会による技術指導を受けています。	高大連携産学連携	園芸科
			乗馬協会(乗馬技術の向上)・六甲山牧場(ふれあい動物の活用方法)・全農兵庫(受精卵の共同開発)などを通じて、動物に関わる幅広い授業を展開していきます。	産学連携	動物科学科
			地域の団体と連携し、地域独自の加工品開発の研究を行う。	地域独自性	食品科学科
			土地改良連合会、土地家屋調査士による出前授業やインターンシップへの参加により、地域に根指した技術者を育成する。	技術者	農業環境工学科
			県立淡路景観園芸学校への見学研修、スポーツスタジアムやゴルフ場などの造園関連業での体験学習や職場実習を実施します。	職場体験校外研修	造園科
			大学・農業技術センター・研究機関と連携した共同研究や研究発表会を実施する。	ポスターセッション 高大連携 産学連携	生物工学科
			「農業と環境」「環境」の学習を通じて、ため池や水田の持つ環境保全機能を理解とともに、防災機能についての理解も図る。	農業の公益的機能	農業科
10	「地域防災を推進する」教育を行います。	地域防災	「農業と環境」「環境」の学習を通じて、ため池や水田の持つ環境保全機能を理解とともに、防災機能についての理解も図る。	農業の公益的機能	園芸科
			ボランティア活動の推進。	ボランティア	動物科学科
			「農業と環境」「環境」の学習を通じて、ため池や水田の持つ環境保全機能を理解とともに、防災機能についての理解も図る。	農業の公益的機能	食品科学科
			河川の堤防等の土木建造物の見学等を通して、命を守るインフラについて考える。	耐震・減災	農業環境工学科
			緑地の持つ防災機能を学び、都市緑地の在り方を学びます。	都市プランニング	造園科
			県・市行政と結びついた里山保全、水源保全のボランティア活動への積極的参加を通じ、地域の自然と防災との関連を学ばせる。	水源涵養林 水質浄化 バイオレメディエーション	生物工学科